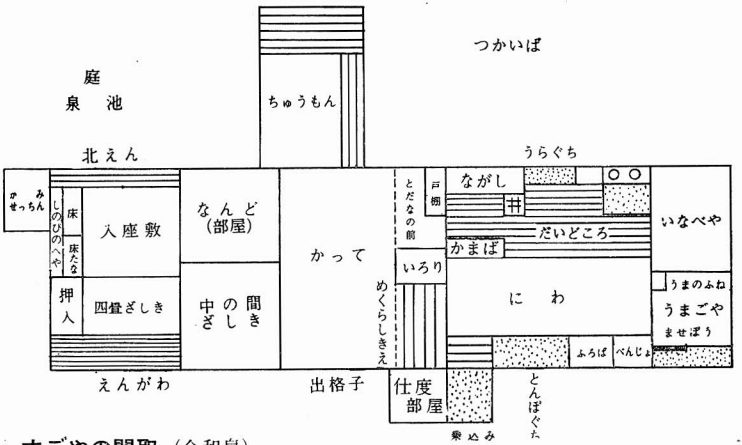
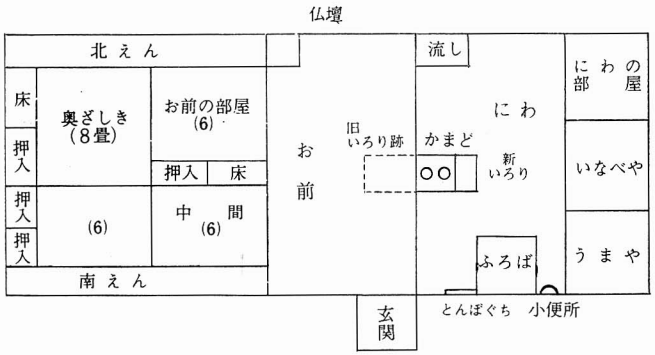
っぽんやが普通で、これには名称がなく、曲屋といっても、奥会津地方のような大規模のものではないが、うまやちゅうもんとでもいったらよいような曲屋形式がぽつぽつある。もう一つ、肝煎などの古い建物に、裏ちゅうもんともいうべき、裏に凸部のある曲屋が残っている。

屋根はもやとか破風が両端に、又は片方についていないのが多い。しかし煙出しを、主にやぐら破風ともいって、たいてい母屋の、炉の上の方につけている。特に切妻などの櫓形の破風をつけているのが多い。また寄せ棟、あづまやの南斜面の中央などに、特に煙出しをつけているものなどもある。

うらちゅうもんのある旧家の間取り（石原・遠藤一嘉宅．戦前の改築前）



すごやの間取（今和泉）